

## 2-1 都市づくりの基本テーマ

都市計画マスタープランでは、「世界都市金沢」を実現するために、都市計画として必要な理念や基本方針を定めます。

今回の見直しにあたり、既定計画策定以降約 10 年にわたる金沢市の都市づくりの進捗や大きく変化した社会経済情勢等の背景を踏まえると、これからのまちづくりにおいては、歴史資産の継承、適正な土地利用計画の誘導と公共交通との連携による都市機能の集約化、総合的な環境施策による低炭素社会の実現、安全、安心の確保等により、きちんと次の世代に受け継いでいける金沢をつくりあげていくこと、また、都市の主役である市民を主体にまちづくりを進めることがより強く求められていると考えられます。

そこで、これらをもとに次のように「都市づくりの基本的テーマ」を掲げることとします。

### 都市づくりの基本的なテーマ

市民とともに、金沢らしさを守り育て、持続可能なまちづくりを進めることにより、  
世界の中で独特の輝きを放つ「**世界都市金沢**」の実現



「世界都市金沢」を目指す金沢市

### 想定人口

金沢市都市計画マスタープランの目標年次（平成 37 年）における想定人口は 437,000 人と設定します。

平成 17 年（2005 年）  
**454,607** 人

平成 37 年（2025 年）  
**437,000** 人

※ 平成 17 年は国勢調査による

## 2-2 都市づくりの目標

『「世界都市金沢」の実現』のテーマのもと、これまで整理した視点や課題から、都市づくりの目標として以下に示す8つの項目を設定します。

### 【都市づくりの目標の設定】

改訂計画における視点・課題

**視点：世界に開かれた都市**  
課題：整いつつある都市基盤の有効活用

**視点：人口減少、少子・高齢社会**  
課題：都市の機能の集約化と質の向上

**視点：特有な歴史・文化・伝統**  
課題：金沢特有の個性の発揮

**視点：地球環境**  
課題：都市と環境との共生

**視点：安全・安心**  
課題：安全・安心な暮らしの確保

**視点：市民参加**  
課題：市民のまちづくり参加意識の向上

改訂計画における目標

**世界に誇れる魅力と活力あるまちづくり**

**持続的発展が可能で質の高いまちづくり**

**歩行者・公共交通を優先した快適なまちづくり**

**歴史・文化・伝統を活かしたまちづくり**

**自然と共生する環境にやさしいまちづくり**

**だれもが安心して暮らせる人にやさしいまちづくり**

**災害に強いまちづくり**

**協働で進めるまちづくり**

北陸新幹線をはじめとする各種基盤整備が整いつつあり、これらを最大限に活かし交流人口や企業進出の増加を図ることにより、中心市街地の活性化や地域拠点形成を図り、魅力と活力あるまちづくりをめざします。

来るべき人口減少、少子高齢社会に対応して、中心市街地を核とした効率的な都市経営を推進するとともに、農村集落の維持にも配慮し、都市全体としてバランスのとれた住環境を形成することにより、持続的発展が可能で質の高いまちづくりをめざします。

公共交通利用促進と歩ける環境整備を最重要課題として、マイカーと公共交通のバランスのとれた交通体系の構築を推進することにより、歩行者・公共交通を優先し、移動が円滑で快適なまちづくりをめざします。

日本を代表する大型の城下町として重層的な歴史のなかで継承されてきた都市構造や文化、伝統は、金沢の貴重な財産であり、世界文化遺産登録を視野に入れた取り組みを進めることにより、自らの歴史に責任を果たせるまちづくりをめざします。

白山山系を背に日本海に面し、三つの丘陵と二つの河川からなる独自の地形を骨格とする豊かな自然を後世に守り伝えるとともに、農地や森林の維持を含めた総合的な環境保全の取り組みを推進することにより、自然と共生する環境にやさしいまちづくりをめざします。

高齢社会への対応はもちろん、すべての人が快適で安心して暮らせるよう、各種施設のバリアフリー化やコミュニティの充実などを推進することにより、地域が支える人にやさしいまちづくりをめざします。

起伏に富んだ魅力ある地形、伝統的なまちなみを守りつつ、防災性向上に必要なハード、ソフト両面からの施策を積極的に展開することにより、災害に強い安全で安心して住めるまちづくりをめざします。

まちづくりは市民を主役に産・学・官の全ての知恵と力をあわせて取り組むことが不可欠であり、そのために必要な体制、組織づくりや情報公開を推進することにより、協働による開かれたまちづくりをめざします。

## 2-3 将来に向けた 都市づくりのあり方

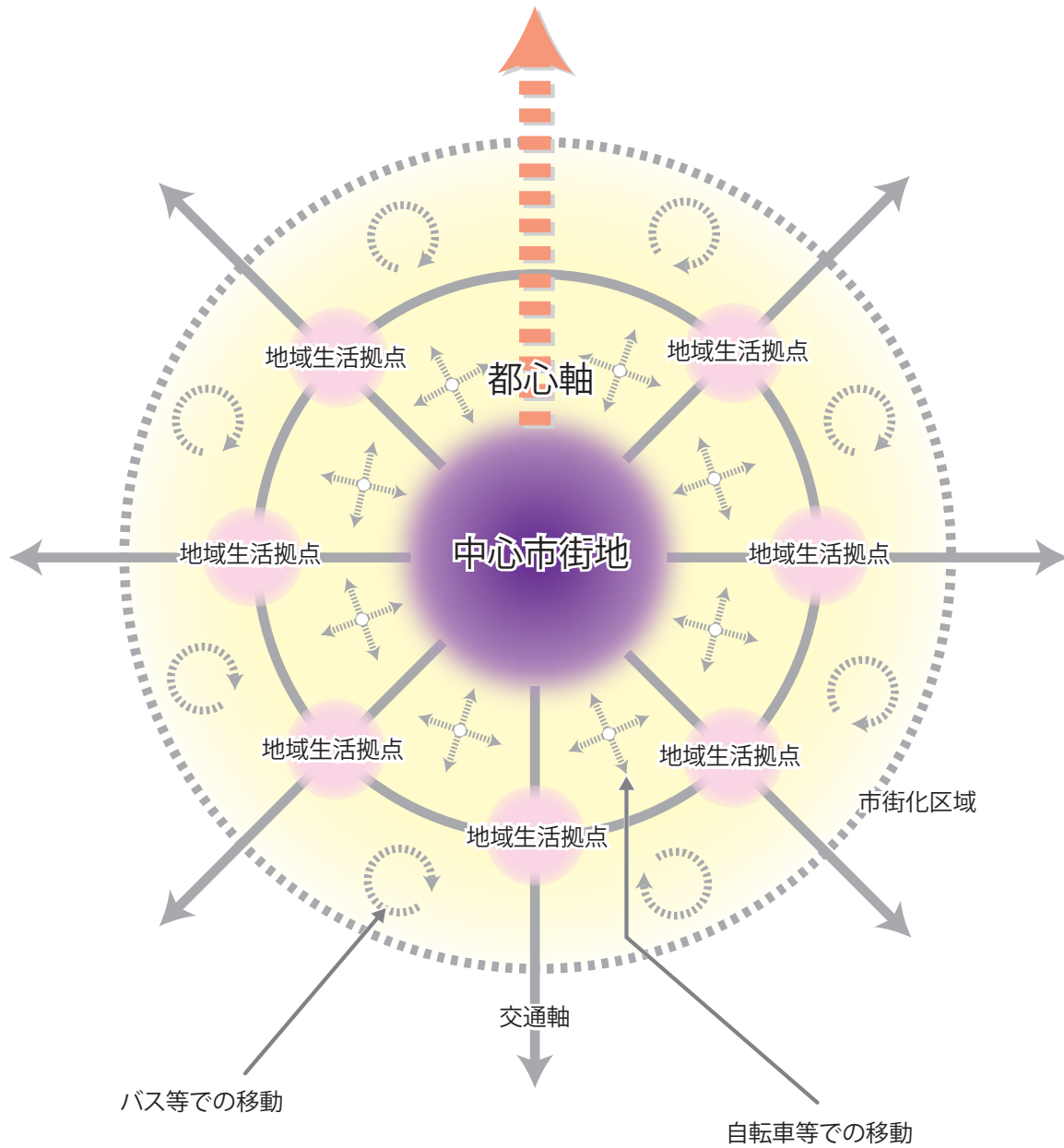
### 将来の都市像

将来に向けた金沢市の都市づくりのあり方としては、藩政期から蓄積されてきた歴史文化が色濃く残る中心市街地と、その周囲に発展してきた地域ごとの生活を維持するための拠点を配置し、それらを公共交通中心の交通軸で結びつき強化を図るものとします。

すなわち、金沢市が城下町として発展してきた歴史性と豊かな自然など、今日までその形態が継承されている特性を踏まえて、その人間スケールの都市構造を将来にわたって維持、発展させ、中心市街地に磨きをかけながら地域生活拠点の形成と交通軸による連携強化を図ることで、将来的な社会構造の変化に対応した、安心して暮らせる持続可能で魅力と活力にあふれる都市づくりを目指します。

- 1 市街地の拡大は、原則として行わない
- 2 主な都市機能を適正な土地利用計画の誘導と公共交通との連携により、中心市街地及び都心軸に集約
- 3 地域生活拠点の公共交通との連携による適正な誘導

【将来的な都市づくり概念図】



金沢市の将来像実現に向けた都市づくりの骨格となる都市構造を、大きく「土地利用」「交通」「歴史・景観」「水と緑」の区分により設定します。

### A. 土地利用構成と主要な都市機能

【基本的土地利用構成】として中心市街地、市街地、農業環境、自然環境の4つのゾーンを設定するとともに、【主要な都市機能】として都心軸、地域中心拠点、産業拠点、学術拠点の設定を行うことにより、金沢市の都市づくりの基盤となる土地利用構成を提示します。

## 基本的土地利用構成

### 中心市街地ゾーン

中心市街地活性化基本計画の対象区域を中心市街地ゾーンとして位置づけます。

金沢らしさの象徴であり都市全体の核となるゾーンとして、これまでも近代的都市機能と自然、伝統文化のバランスに配慮したまちづくりを進めてきました。今後は、世界都市金沢の実現のため、歴史的資産の保存、活用に努めるとともに、定住促進、商業、業務の活性化、交流人口の拡大、公共交通を優先した歩行者中心の交通政策の推進を積極的に進めることにより、にぎわいと活力のある風格を備えた中心市街地の実現を進めます。

### 市街地ゾーン

おおむね現状の市街化区域を市街地ゾーンとして位置づけます。人口減少、少子高齢社会の到来を背景とした持続可能な都市づくりを進めるために、今後は原則として市街地の拡大を行わないものとします。

市街地ゾーンは、大半が戦後形成された新市街地であり、約半分は土地区画整理事業が実施されています。住宅地を中心に商業、業務地、工業地、流通業務地などが配置されており、地区ごとの特性に配慮した機能整備を進めます。また、まちづくりルールの普及をはじめとして市民とともに安全、安心で質の高い住環境整備に努め、成熟した都市にふさわしい市街地づくりを推進します。

### 農業環境ゾーン

主として JR 北陸本線以西の平野部の市街化調整区域を農業環境ゾーンとして位置づけます。

河北潟周辺地区、粟五地区及び安原地区などの優良農地を保全し農業の振興を図るとともに、良好な集落等の生活環境づくりを進めます。

## 自然環境ゾーン

市街地の後背部にある山間地、犀川、浅野川の両河川および海岸線沿いを自然環境ゾーンとして位置づけます。

金沢市は多様な地形のもと豊かな自然に恵まれており、都市を構成する貴重な財産として、また、良好な景観を形成する大事な要素として守り続けていかなければなりません。自然環境ゾーンは、生態系保全、水源保全、災害防止などの基本的機能に加え、潤いとやすらぎの場、観光資源といった付加的機能にも配慮して、保全を基本に活用を図っていきます。また、後背地となる山間地に点在する集落について、農地や森林を守っていくためにも農林業の継続と集落機能の維持に努めていくこととします。

## 主要な都市機能

### 都心軸

片町、香林坊から武蔵、金沢駅を經由して金沢港に至る軸線を都心軸と位置づけます。

都市機能の効率化を推進するために、日本海側の中枢基幹都市として備えるべき商業、業務機能や各種交通施設などを積極的に都心軸に集約配置し、風格ある近代的都市金沢の顔を形成します。特に、中心市街地ゾーンにおいては、「保全」と「開発」が調和したエリアとして位置づけられ、歴史性に配慮しつつ近代的都市機能の集積、充実に努め、中心市街地の活性化を推進します。

### 軸上都市拠点

- ・ 片町、香林坊地区、武蔵地区を中心商業地として位置づけ、県外からの集客力を備えた商業機能の充実を図ります。
- ・ 金沢駅周辺は最重要交通結節点として位置づけ、商業機能を含めた各種都市機能を備えた金沢の玄関口として整備を推進します。
- ・ 石川県庁周辺地区は、駅西副都心の核として位置づけ、近代的都市機能の集積を推進します。
- ・ 金沢港地区は、港湾機能の核と位置づけ、世界から多くの人と物を迎える海の玄関口として整備を推進します。

### 地域中心拠点

JR 北陸本線の森本駅、東金沢駅、西金沢駅周辺を地域中心拠点と位置づけます。

これらの地区は、地域活性化の核として、鉄道、バスなどの公共交通が集まる立地特性を活かし、交通結節機能の向上を図るとともに地域の生活を支える商業機能や各種都市機能の充実を推進します。

### 産業拠点

おおむね外環状道路より外側に整備した金沢港周辺、専光寺地区、安原異業種工業団地、いなほ工業団地、金沢テクノパーク周辺の工業地を産業拠点として位置づけ、企業の新規誘致や市街地からの移転企業の受け皿として機能強化を図ります。また、北陸自動車道金沢東、西インターチェンジ周辺地区についても、広域交通ネットワーク機能を活かした金沢市の産業発展を支える産業拠点に位置づけます。

### 学術拠点

金沢には、金沢大学や金沢美術工芸大学をはじめとする多くの大学、研究機関があり、隣接市町を含めると更に充実した状況となり、そこにある知恵と力は大きな財産といえます。これらを学術拠点として位置づけ、市民、大学、行政の連携密度を高めていくことにより、さらに質の高いまちづくりの展開を目指します。

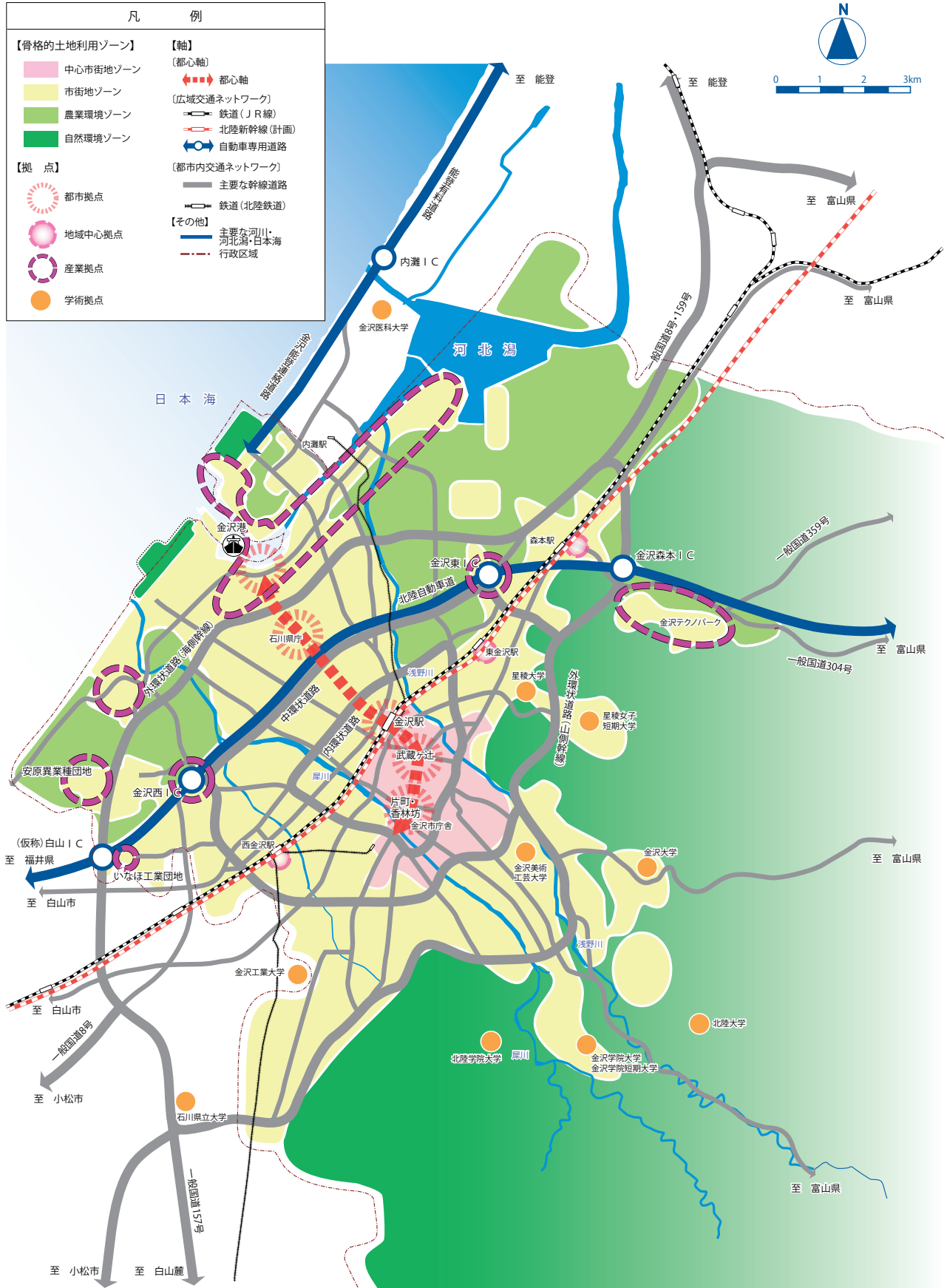
### 観光機能整備

金沢には、国内外から多くの観光客を引きつける様々な歴史的観光スポットや伝統的芸能、工芸があります。平成 27 年度には年間入り込み客数 1,000 万人を目指しており、重要な産業の一つといえます。

そこで、多様な観光要素に磨きをかけるとともに、歩きやすい歩行環境整備や公共交通整備など、来街者の利便性向上を積極的に進め、魅力ある観光地の実現を推進します。

### 公共公益施設

これまでも金沢 21 世紀美術館や玉川こども図書館など、様々な公共公益施設の整備を進めてきましたが、今後もさらに充実した生活が送れるよう、施設の種類やサービス内容ならびに適切な配置を検討し、必要な公共公益施設の整備、運営に取り組んでいきます。



【土地利用構成と主要な都市機能】

### B. 都市活動を支える交通機能

都市活動を支える骨格的な交通機能を、主として遠方および隣接する都市間との連絡機能を担う「広域交通ネットワーク」と、主として都市内の連絡機能を担う「都市内交通ネットワーク」に区分して設定します。

今後は、地球環境の保全および人口減少、少子高齢社会の到来に対応していくために自動車に依存しない交通体系づくりを進めていく必要があります。そこで、歩行者、公共交通を優先するまちづくりを推進する観点から、公共交通重要路線、交通結節点、パーク＆ライド駐車場を位置づけ、人と環境に優しい交通体系を構築していきます。

#### 広域交通ネットワーク

道路…北陸自動車道、東海北陸自動車道、能登有料道路により富山、福井、中京、能登への主要経路を確保します。また、一般道として、国道8号をはじめとする国道、県道があり、これらの機能強化と渋滞対策を進めていきます。また、東海北陸自動車道（福光方面）への連絡道路の整備を図ります。

鉄道…金沢市と周辺都市を結ぶJR北陸本線、七尾線があり、乗り継ぎ機能の向上をはじめとして利用活性に努めます。また、2014年に予定される北陸新幹線金沢開業に向けて全力で整備を推進するとともに、JR北陸線の第3セクターについても良好な移動機能確保に向けて検討を進めます。

#### 都市内交通ネットワーク（道路）

内、中、外の3つの環状線を中心にそれらを放射状に結ぶ放射幹線により基本的道路ネットワークを構成します。内、中環状の残された区間の早期完成を進めるとともに、外環状道路（海側幹線）の開通を最重要課題として取り組みます。あわせて、公共交通との関係に配慮して市内の交通渋滞の解消に向けた取り組みも推進します。

#### 都市内交通ネットワーク（公共交通）

バスや鉄道などの公共交通の充実による利用活性化を最重要課題として取り組み、このための主要な施設として以下の3つの機能の整備を進めます。

##### 公共交通重要路線

都心と市街地ゾーンを連結する公共交通幹線として主要なバスルートと鉄道を位置づけます。バスルートでは、積極的にバスの優先化などを進め、公共交通の利便性向上を図ります。

##### 交通結節点

複数の公共交通を効率よく接続し利便性を高めるために、駅や主要バス停を交通結節点として位置づけ、必要な整備を推進します。

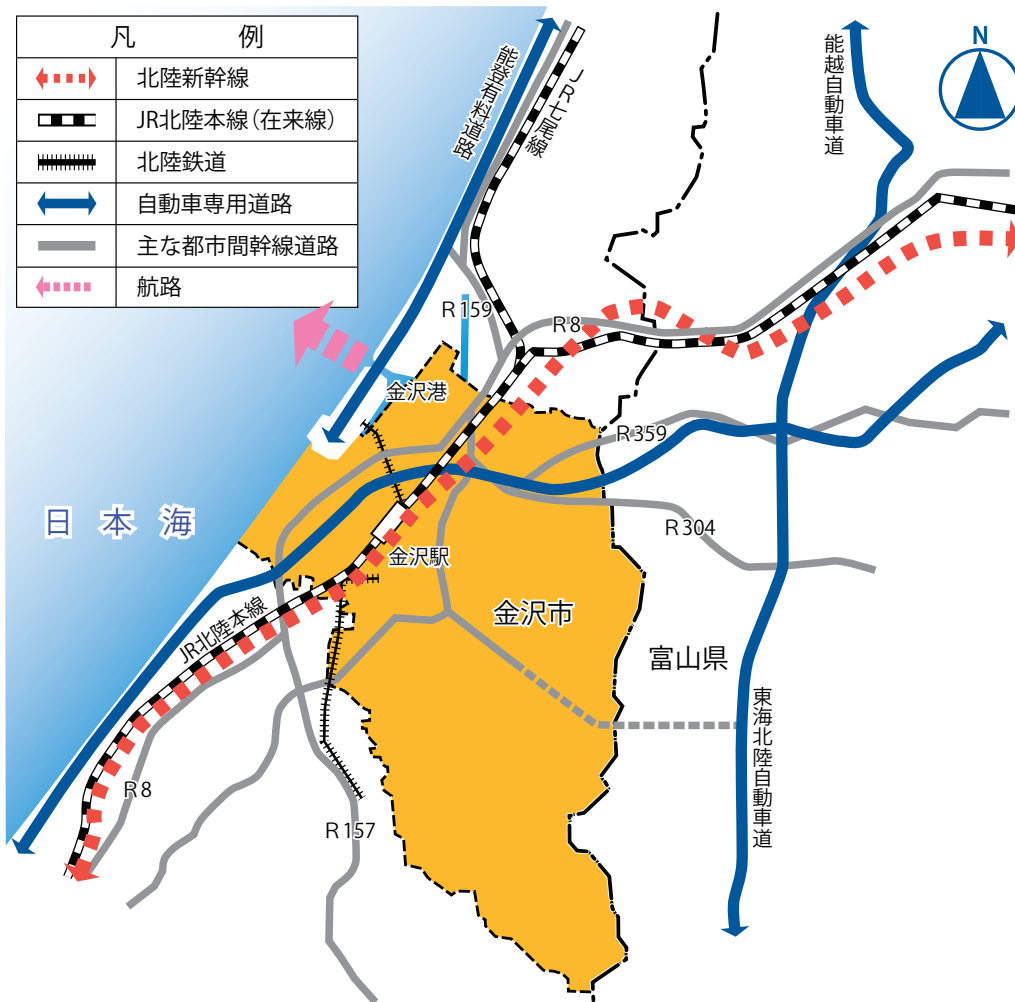
### パーク＆ライド駐車場

公共交通の利用を促進し、都心への過度な自動車の流入を抑制するために中環状の外側を中心に、自動車から公共交通に乗り換えるパーク＆ライド駐車場を整備します。

### その他の交通機能

身近な生活道路については、周辺住民の生活空間であることに配慮し、歩行者主体の道路整備や使い方を工夫するとともに、まちなかにおける駐車場の適正な配置を推進します。

また、環境にやさしい交通機関である自転車の利用促進を図るため、自転車駐輪場の整備や自転車道の整備についても取り組んでいきます。



【広域交通網図】



## C. 都市の個性を生み出す歴史・景観

河川や斜面緑地などの自然環境を保全し、世界文化遺産登録を視野に入れた取り組みとの連携、整合を図りながら固有の歴史文化遺産に磨きをかけるとともに、景観条例の基本的対象区域を拡大するなど、市民意識の向上とともに、より良好で魅力ある景観形成を推進し、さらなる個性の確立に努めていきます。

加えて、沿道景観、夜間景観など新しい景観要素に対しても適切な規制を行い良好な景観形成を推進します。また、都市全体に対して地区計画やまちづくり協定の普及を図り、建物、広告物等の形状、色彩や緑化についても市民との協働により魅力ある景観づくりを進めていきます。

### 歴史・文化ゾーン

城下町としての都市構造やまちなみの保全を目指して、中心市街地ゾーンを基本に、金石、大野地区の港町や街道筋など歴史的資産を残す地区を歴史、文化ゾーンと位置づけ、各種制度や事業を活用して金沢の歴史性に基づく景観の保全、創出を推進します。

金沢城や兼六園をはじめとする市内各所の歴史文化遺産を核に、点から線、線から面への景観形成を進め、人々の暮らしや時の移ろい（昼夜、季節）にも配慮した魅力ある情景づくりに努めます。また、景観地区（景観法）の指定をはじめとして景観形成のよりよい仕組みづくりにも取り組んでいきます。

### 都市機能集積ゾーン

主として都心軸及び軸上都市拠点を都市機能集積ゾーンとして位置づけます。

商業、業務などの都市機能の集積を推進し中枢基幹都市金沢としての活力と賑わいの創出を図る中、歴史・文化ゾーンとの調和を図りながら、歴史都市金沢にふさわしい洗練された風格ある都市景観の育成、創出に努めます。

### 重要広域幹線景観形成軸

北陸自動車道や外環状道路には、通過交通を含む市内外からの多くの通行があり、その沿道は来訪者の金沢に対する第一印象を与える場所ともなっています。

そこで、重要広域幹線景観形成軸を指定して規制、誘導を行い、金沢にふさわしい品格のある沿道景観の形成を推進していきます。

また、西インター大通り、東インター大通り、諸江通りなど、市内中心部を結ぶ道路についても、良好な沿道景観の形成を目指していきます。

### 歴史・文化拠点

金沢には、金沢城、寺院群、茶屋街、金澤町家などに加え、昔からの道路形態や用水、惣構などの多くの歴史的遺産があり、これらを歴史・文化拠点として積極的に位置づけ、保全、活用を進めていきます。また、これらを包み込むものとして、周辺のまちなみや丘陵、斜面緑地などの保全に努めるとともに、伝統芸能、工芸などの無形の伝統的要素との融合を進めることにより、金沢らしい感性をあわせ持った景観の形成に取り組み、世界に向けて「城下町金沢」を発信します。



### D. 都市を包む水と緑の環境

金沢が有する多様で豊かな自然を守り育てることは、市民生活に憩いと潤いを与えるため、生態系を守るため、世界的な環境保全に寄与するために必要となる、大切な都市づくりの取り組みといえます。

そこで、白山山系から連なる山間地および日本海に面する海岸線、そしてこれらを結ぶ河川を都市環境軸と位置づけ、保全活用に努めます。また、市民の憩いの場となる公園緑地などのレクリエーション拠点の整備を推進するとともに、平地、中山間地の農地についても重要な自然環境として保全を推進していきます。なお、総合的な環境保全として、交通、生活などの日常的な活動における二酸化炭素排出削減などにも積極的に取り組んでいきます。

#### 都市環境軸

市街地の東にある山間地とそれが市街地に接する卯辰山、小立野台、寺町台の三丘陵を緑の環境帯、市街地の西にある日本海の海岸線および河北潟を海辺の環境帯とし、市街地を横断して2つの環境帯を結ぶ犀川、浅野川の両河川とこれらを外環状道路（海側幹線）に沿って繋ぐ西部緑道をあわせて金沢市の環境、風土の骨格を形成する都市環境軸と位置づけます。

これら山林、河川、海岸による都市環境軸は、市民生活の憩いと潤いの創出、生態系保全などの基本となるエリアであるとともに景観上も大切な要素であり、自然の保全を基本に必要な取り組みを進めていきます。

#### レクリエーション拠点

市民はもとより広域的な利用者の憩いの場となる公園、緑地をレクリエーション拠点として位置づけます。

金沢城公園、兼六園、中央公園、本多の森公園を歴史とにぎわいの拠点、卯辰山公園、奥卯辰山健民公園、大乘寺丘陵総合公園、こなん水辺公園を憩いの拠点、西部緑地公園、金沢城北市民運動公園をはじめとする運動施設を有する公園をスポーツ拠点として、市民の利便性を第一にそれぞれの目的と特徴を活かした整備と運営を進めていきます。

#### 住区基幹公園

市民の日常生活に直結する街区公園、近隣公園について、遊び、休息、憩いなどの本来の機能充実を図るとともに、一次避難や資材保管などの防災広場としての機能も重視して、市民の協力のもと整備、管理、運営に取り組みます。また、整備にあたっては、適切な誘致距離と緑道などの歩行経路によるネットワーク化にも配慮して進めていきます。



【都市を包む水と緑の環境】



## 公共交通政策を介した 都市構造の集約化の考え方

都市全体の維持管理をはじめとする観点から、都市経営の効率化を図ることは不可欠な課題ですが、拡散の進んだ市街地を短期間に物理的な縮退を実現することは不可能といわざるを得ません。しかし、将来的な人口減少にも対応できる都市計画であるためには、商業、業務機能の都心集積を促進することに加えて、住宅を含めた都市全体の土地利用が適切な配置となっていくよう一定の方向性を示す必要があります。

本マスタープランでは、人口減少社会の到来を見据えて原則として市街地の拡大をしないことを打ち出しています。そして、現在の市街地に対しても、都心を商業、業務機能の核として確立し、これを中心とした生活スタイルに転換していくことにより、住宅をはじめとした都市全体の土地利用の適正化を実現していくこととします。また、この都市構造の集約化は、長期的な視野に立ち取り組む必要があると考えています。

この実現のための基本的な仕組みとして、都心への都市機能の集約化と中心市街地の活性化を推し進めることを前提に、都心との連絡利便性を高める公共交通政策を戦略的に展開することを位置づけます。これを長期的に継続していくことにより、居住場所を問わず都心との関係性が高まり、自然な流れとして一定の都市構造の集約化が進んでいくと予測しています。

### A. 都心との関係性の向上

現在、郊外市街地ではマイカーによる自由な全方位型の移動が基本となっています。しかし、高齢化の進展によりマイカーを運転できなくなる住民が増加することは必須であり、これらの人々の移動は公共交通に頼らざるを得なくなります。しかし、この全方位型の移動を公共交通で担保することは物理的、財政的に不可能なことから、金沢市においては、公共交通重要路線を指定し、都心部との移動に方向を限定した公共交通の利便性向上を推進することとしています。これにより、マイカーに頼ることなく、日常的な用件以外は公共交通で中心部に行き用を足すという行動パターンが、郊外や近郊など居住する場所を問わず可能となります（図1参照）。これらの取り組みは、都心への機能集積の推進を柱として、都心との連絡利便性を高める公共交通政策を戦略的に展開していくことにより、様々な都市活動における都心の比重を高め、全ての居住地において都心を中心とした生活スタイルへの転換を図るものです。

金沢市では、物理的な市街地の早急な縮退が非現実的であることから、公共交通政策により全方位型から都心方向に移動のシンプル化を進め、都心を中心とした生活スタイルへの転換を図ることを都市経営の効率化の第一歩と位置づけています。そして、この実現のために公共交通政策が大きな鍵を握っていると考えています。

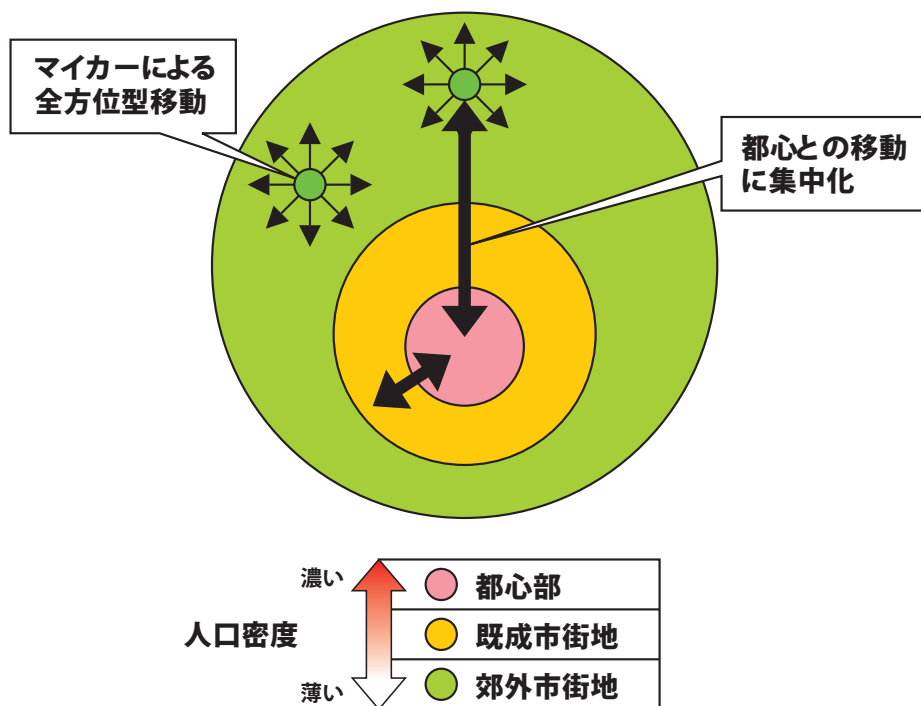


図-1【郊外市街地の移動パターン】

## B. 緩やかな市街地（居住地）の集約予測

これら施策の長期的展開により予測される緩やかな市街地集約化のイメージを図2に示します。

この施策展開により、都心部、既成市街地および公共交通重要路線沿いは、公共交通の利便性が将来的にも確保されるエリアとして位置づけられることから、マイカーに依存しない生活スタイルをおくる場合、居住場所により移動に関して利便性の濃淡が生じることとなります。

居住地の選択は、生活スタイルなど様々な条件により行われますが、高齢化に配慮した終の棲家を選ぶ場合、マイカーを使わなくても一定の移動手段が確保される場所であるかどうかは重要な条件となってきます。そこで、公共交通政策を介した都心機能集約を進めることにより、長い時間をかけて住み替えや新規居住が進む中、移動に関する利便性の濃淡にあわせて、都心部、既成市街地および公共交通重要路線沿いへ居住地の集約化が進展していくと予測しています。

最後に、このように市街地構造が緩やかに変化するという長期的な予測の中、適切な土地利用と良好な住環境を確保していくために検討する必要があると考えられる施策を示します。

- ・ 都心中心の生活スタイルへの転換の促進
- ・ 移動の利便性水準の周知とそれにあわせた居住地選択（住み替え）の促進
- ・ 公共交通重要路線沿いの住環境整備
- ・ 公共交通利用活性化と公共交通重要路線の利便性向上
- ・ パーク＆ライド駐車場や乗換地点周辺における結節機能の拡充と地域商業地整備
- ・ 想定される郊外低未利用地への行政としての対応策の検討

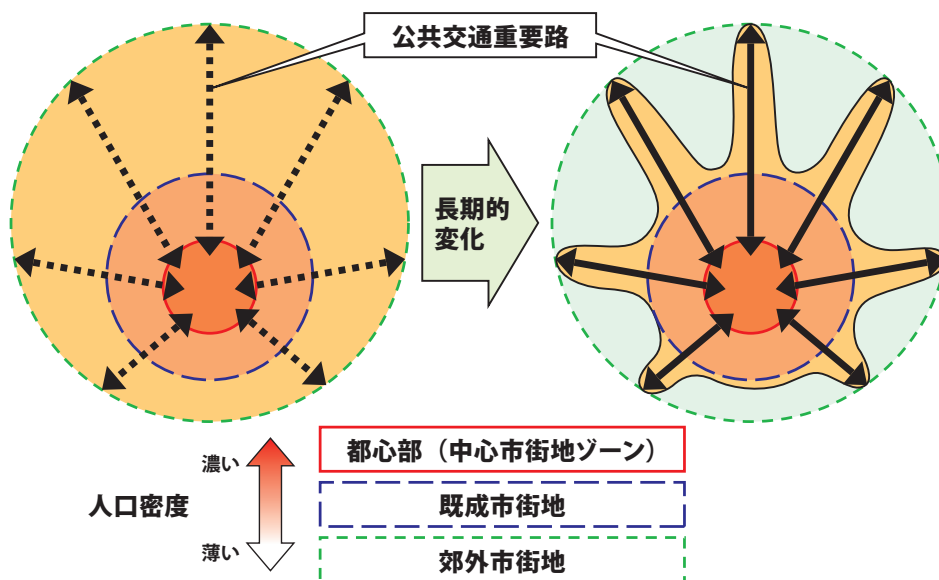


図-2【都市構造の緩やかな変化の予測】

